どう戦うか４　--　抗体治療薬への期待--

〇山中教授のよく言っている factorX 探し。日本は、世界に遅れている。（または、感染研が例によってデータを一極集中させて、出してないか）私も抗体検査結果をだしたが、ヘルシンキ宣言や、査読の壁で、時間がかかる。report は多少問題があっても速く出して、それをヒントに別の研究者が複数で考えていく方法を取らないと、良い方策を迅速に見つけることは出来ないと思う。かと言って MedRxiv 風のデータそのものが怪しいものの玉石混交が良いというわけではないので、私も、一応通常の査読のあるものに出しているがまだ時間がかかる。

〇ファクター X は、治療の方面でも同様だ。ワクチンを一年後に据え、それまでに、既存の治療薬を治験的に使用する方法は、症状の強さ、症状発現からの日数、合併症の程度などに応じて、ある程度確立して来ていることは、良いことだ。死亡率の逓減には、ウイルスの変異だけではなく、実地の医療現場のこういう工夫も大きい。ただ、ワクチンも既存治療薬の活用も期待されるほど、速く成果が上がるとは、経験的に、正直思えない。特にワクチンは、安全なものというファクターだけでも 1 年以上、効果があって安全というには、数年はかかるのではないか。本庶先生も期待するより、かからないことに集中すれば、防げると再三おっしゃっていたし、かかる折には、ワクチンの期待が過度である指摘をされる。

〇ではどうするか、私は、古くて新しい、いや、もっとも古くて、一番斬新な、「抗体治療」に期待するには、より現実的であると思っている。

すでに下記文献など、いろんな研究が出てきている。有効なワクチン開発の歴史のない某 Z 社も、この方面の研究を平行しておこなっているようだ。簡単な解説がある。

〇その他、どう戦うか 1　でも触れている ADCC,Cytokain Storm など、免疫の別のシステムにはない過激な部分をどう扱っていくかもファクター X 探しに直接関係している。この方面も予言？どおりかなり成果が上がっているのは喜ばしいし、どう戦うか 1 でもどう戦うか 2 でも触れている ACE(ACE2)の研究は随分すすんだが、直接の救済までには結びついていない。さらに、もっと時間がかかるかと思われたトランスポゾン説(ここでも触れている)も真実らしい研究まで出てきているのは、個人的に喜ばしいが、それでたちまち死亡する人がへるわけでもない。目下出来ること、特に我々はあまりタッチしない方が正しいと思うが、どう戦うか 3 の新しい生き方への模索も馴れも必要で、「回帰」には早すぎることは、一人一人が肝に銘じる時期だと思っている。

〇文献

A human monoclonal antibody blocking SARS-CoV-2 infection
https://www.biorxiv.org/content/10.1101/2020.03.11.987958v1

bioRexiv to Nature
https://www.nature.com/articles/s41467-020-16256-y7